

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
家族論 Family theory		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹仁美	講義棟3階	木・金（授業時間と学生相談時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
<p>社会の変化に応じて家族の人間関係や家族のあり方は変容し、家族に関わる様々な問題がもたらされている。この科目では、私たちにとって最も身近なテーマの一つである家族について、人の発達を軸とした家族の発達過程、家族機能の変容、家族関係の病理と介入などを取り上げ、家族や家族を取り巻く現状を理解し、分析する能力の習得を図る。</p>				
授業の目標				
<p>①家族の発達過程を理解し、説明できるようにする。②家族機能の変化とその関連要因について説明できるようにする。③家族関係をめぐる様々な問題と介入について実践的知識を得て、基本的対応行動をとれるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>講義形式とグループ討議などの参加型形式。また、毎回のレポートにより授業を振り返る。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>①家族の発達過程から、自らの家族との関係を見直すことができる。②家族と社会の関係を念頭に、社会問題に関心を持ち考察することができる。③家族関係の病理に関する知識をふまえ、家族が抱える現象を分析し、自らにできる行動をとることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 家族とは			
第2回目	家族をめぐる状況 無戸籍問題			
第3回目	家族の機能 家族ライフサイクル ジェノグラム			
第4回目	家族のシステム 良母幻想 男性の育児			
第5回目	ジェンダー			
第6回目	収入、就労と結婚			

第7回目	結婚と出産 女性と自立	
第8回目	特別養子縁組 里親制度	
第9回目	児童虐待問題①	
第10回目	児童虐待問題②	
第11回目	犯罪被害者救済 家族の喪失	
第12回目	少年犯罪	
第13回目	がん患者と家族	
第14回目	さまざまな家族の形	
第15回目	若年性認知症と家族	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、各回のテーマに関連する情報を収集する。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業に集中して、しっかりノートをとっている。グループワークで意見を述べ、他のメンバーへの配慮もできる。疑問があれば質問する。
レポート	50%	單元ごとにレポート課題を出す。課題の目的を把握し、熟考し、論理的構成で書かれている。
調査報告書		
小テスト		
試験	30%	論述問題を実施する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
毎回、資料を配布する。 参考図書：新聞資料等		
履修上の留意点・ルール		
積極的な参加を期待する。 ●実務経験 職種：臨床心理士（心理判定員）、職歴：通算25年		